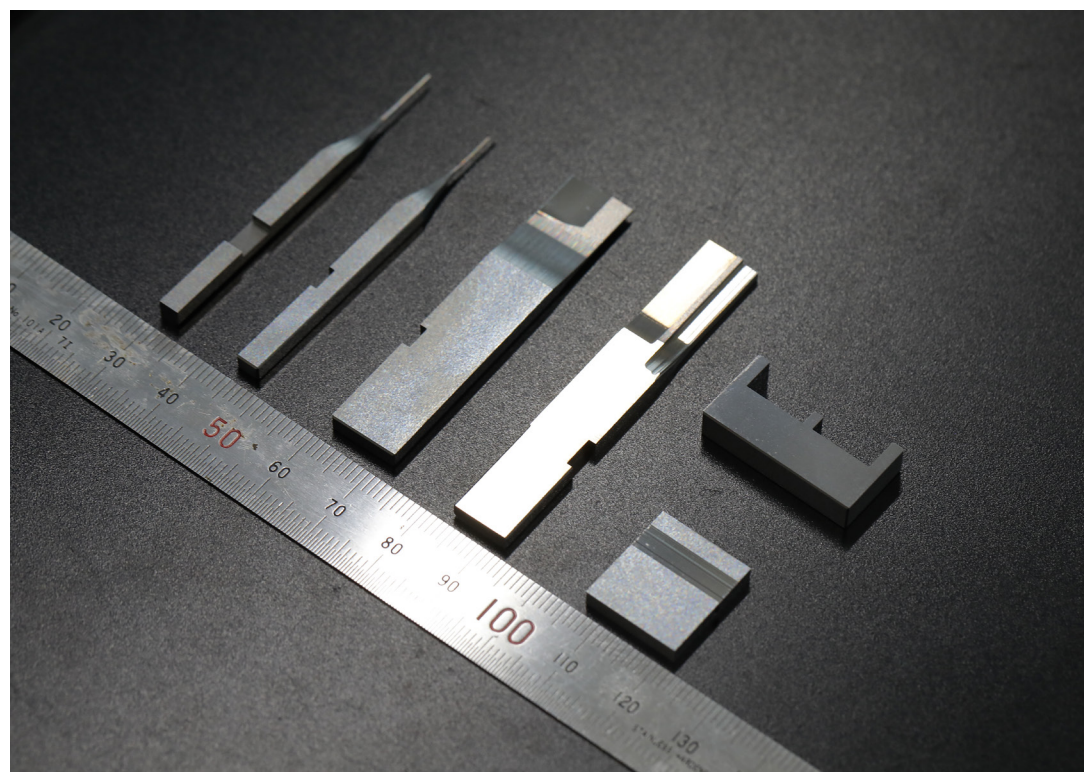


Case

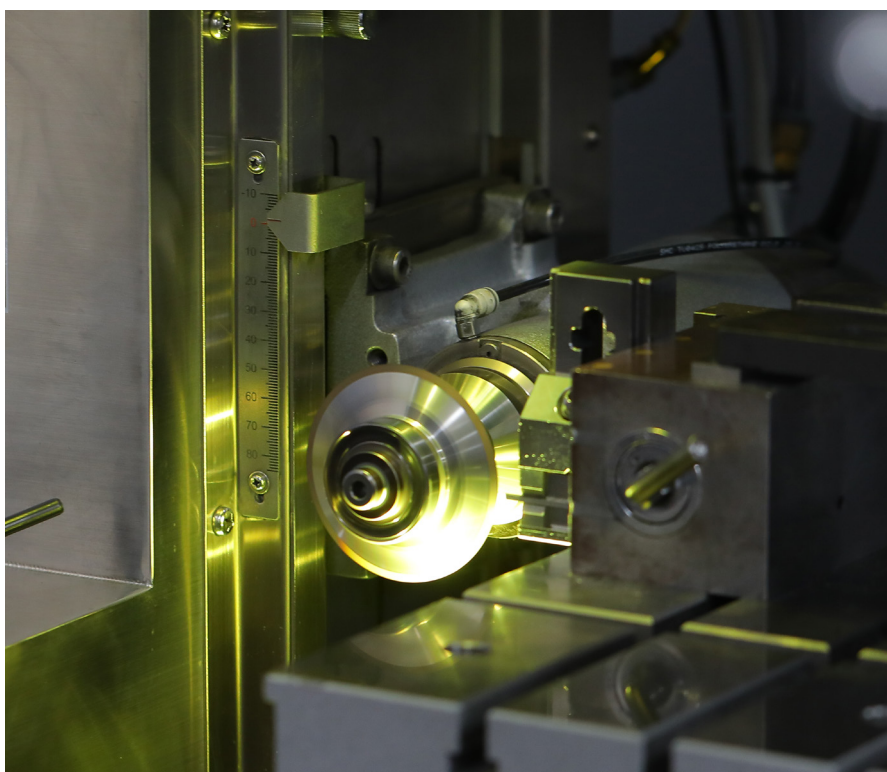
1

鏡面切削加工で金型部品の耐久性を向上、特急対応で顧客の信頼も獲得

鏡面切削加工のためのグラインダ設備を導入した。公差±1ミクロンのマイクロコネクタ製造金型部品に加えて、電子化の進む自動車業界への参入も実現している。特急対応を強みに顧客からの信頼も獲得している。



▲鏡面加工された部品



▲導入したグラインダによる鏡面加工

補助事業のきっかけ

- ・これまでは試作開発と組み合わせた補助金が多かったが、ものづくり補助金では生産性向上のための設備投資が認められた。
- ・設備投資を考えているタイミングだったので申請をした。

事業計画の概要

- ・マイクロコネクタ製造金型部品において高精度・短納期要求に対応すべく、設備投資を行い、鏡面部品の生産性向上を確認した。
- ・主力のスマートフォン部品向けだけでなく、自動車業界への参入を目標にした。

事業化状況

- ・電子部品コネクタ業界において、高精度技術、特急対応が可能となり顧客からの信頼も高まっている。
- ・生産性が向上したことで受注量を拡大でき、失注が減った。
- ・売上高が全社的に向上し、内訳で見ると自動車業界向けの販売が25パーセント増えている。新市場参入ができ売上へ貢献している。

競争力を高めるための鏡面加工技術

当社は主にスマートフォン（以下、スマホ）内部に使用されるマイクロコネクタ製造のための金型部品を製造しています。スマホは年々大型化が進んでいますが、内部の部品を見ると長時間使用のため大型化されたバッテリーにスペースを割いていて、他の構成部品は小型化、高精度化を求められています。当社の製造する金型部品は公差±1ミクロンを求められています。またコネクタ金型の部品点数は100を超えますが、そのほとんどが1点ものの受注生産となり、顧客は部品の在庫を持たないため短納期を要望されます。さらに、金型部品はコネクタ端子材料のリン青銅を高速で打ち抜くために使用され、その衝撃により部品の摩耗や破損を引き起こしやすく、丈夫で耐摩耗性が求められます。このような環境に対応するため、補助事業では加工面の凹凸を最小限に抑えた鏡面加工技術を確立することを目指しました。

鏡面加工の利点は表面の凹凸が減り金型部品の摩耗が減ることです。

金型の生産性が高まり、製造できる部品点数が増えるので、顧客からの引き合いも増えていきます。

海外企業との価格競争は年々激化しています。ここ10年で金型部品の平均単価は20パーセントほど下がりました。自社の生産性向上も継続的な課題です。

顧客の中で上位の外注先になる

営業活動においては、EVなど電子化の進む自動車業界から引き合いが増えています。自動車関連部品を納めている顧客への売上が補助事業後に25パーセントアップしたケースもあり成果が出ています。

当社の経営は下請けモデルなので、顧客から設計図が出てこなければ仕事がありません。顧客開拓には技術的な信用を得られるまでに時間がかかります。顧客数を増やすことも大切ですが、普段の取引の中で技術力をPRし、特急対応を引き受け、当社の価値を認めてもらうことが重要です。仕事の波はありますが、顧客の考える外注先の中で当社が上位にポジショニングできることが経営の安定化に寄与すると考えています。

事業テーマ： コネクタ端子金型における鏡面研削加工の高精度化・短納期化による競争力の向上

事業者名：株式会社アピック 事業年度：24年度

企業概要



研削を専門に微細・精密加工を行う。特に超硬精密加工を得意とする。図面を通してお客様の要望を汲み取り、品質にこだわった良品をお届けすることでお客様との信頼関係を築いている。微細形状鏡面加工技術による部品は高い耐摩耗性を持ち、金型の長寿命化やメンテナンスを軽減し、顧客からの引き合いも多い。川崎ものづくりブランドに認定されている。

株式会社アピック

代表取締役 新井 聡

1980年

〒213-0031
川崎市高津区宇奈根
744-8

15名

1,000万円

044-833-2406

生産用機械器具製造業



WEBサイトへ

取材の現場から

電子化の進む自動車業界では、部品の精密化が求められ当社の技術が顧客の課題解決につながっているという。スマホ用のマイクロコネクタの金型部品製造で蓄積した技術を武器にビジネスチャンスを手く掴んでいる。設備投資で生産性を高めて既存顧客との関係性も維持している好事例である。



▲代表取締役の新井 聡氏



▲設備の操作風景